

【ねがいはましては】

平成26年8月25日

KYOWA SCHOOL

第286号

「ただいま」

今年のキャンプも天気にも恵まれ、にぎやかなうちに終わりました。毎年、キャンプ場の奥さんに言われてしまう一言、「おかえりなさい」。

私には、毎年この一言がとても小気味よく聞こえてなりませんでした。そこで今年はキャンプ場に到着してから、みんな「ただいまー」と、スタートしました。私が参加者である子どもたちに頼んだのはこれだけ。さて、その後どうなったのか・・・。

キャンプ場のオーナーさんや奥さんがいる一階の売店へ降りていきなり、毎回「ただいまー」と、元気な声で入っていくのです。毎回です。これがどれだけオーナーさんご家族の心を温める言葉であるか。

毎年、キャンプ場へ行くのを楽しみにしているのは私たちだけではなく、キャンプ場のご家族も、私たち同様、とても楽しみにしてくださっていることが、身にしみてわかる今回のキャンプでした。今回の参加者たちはすぐにオーナーさんに懐き、その夜からは毎日のようにオーナーさんからバンガローへ訪ねていただきました。

平日であったことや、他の団体さんも特になかったことなどが幸いし、毎日訪ねていただきました。写真でもわかるのですが、とにかく楽しそう・・・。ほうとうづくりを粉から完成まで教えていただきました。それも子どもたちだけです。麺作りは女の子たち、湯を沸かすのはもちろん薪から、それは中学生の男の子たち。ガスを使わず、薪から着火の醍醐味を味わいます。みそを溶くのも5年生の女の子です。

「いただきまーす。」贅沢な味わいです。

初日から大家族が発生した賑わいです。

さて、今の子どもたちの日常の中で、どれだけの子が家に帰ってきたとき「ただいまー」と言っているのでしょうか。もちろん誰もいなくても「ただいまー」という子もいると思います。でも、やはりどんなときにも「ただいまー」、家の中からは「おかえりー」という返事が返ってくる安心感は何にも代えがたい光景だと思います。

もちろん家を預かるものにとっても、元気な声で「ただいまー」とやってくれば、心の奥底からしあわせが湧いてくると思います。おもわず「おかえりー・・・。」

そのことばの掛け合いから家族であることの安心感が家じゅうを覆い尽くします。今はとても共働きの方が多くなりました。特に低学年のころには学童保育クラブなどを利用されている方も多くいらっしゃいます。お子さんはご家族が迎えにいらっしゃるのを一分一秒心待ちにしながら、今か今かと待っています。「こんにちは」と、お迎えに来てくれた時のうれしさをご想像ください。と、同時に、「こんにちは」と、声が聞こえたときに、自分のご家族ではなかった時のがっかり観をご想像ください。毎日のように待つ・・・。

子にとっての贅沢な光景は、いや、当たり前であってほしい光景は、いつでもお家へ帰ってきたときには「ただいまー」そして「おかえりー」の返事が聞きたいと思うのです。家族は毎日「ただいまー」の声色を聞きながら、「きょうはちょっと元気がないな、どうやら学校で何かあったらしいな。」と、察し、「何か学校であったようだね、話してごらん。」「うん、実はねー・・・。」聞いてくれる人がいる。理解してくれる人がいる。ああ、この家に生まれてよかった。

家族の絆はますます太くなっていきます。子は心から家族を敬います。「おとうさん、おかあさんを悲しませたくない。」当たり前かもしれませんが、今、この当たり前なところが子どもたちから少しばかり遠ざかってしまったような気が致します。

佐世保で起きた16歳の高校生が同級生を殺害した事件、加害者家族が、もし、「ただいまー」が当たり前の家族であったのなら・・・。加害者がなぜ一人暮らしをしなければならなかったのか。

「ただいまー」「おかえりー」

加害者ははたしてこの言葉を何回口にしたのでしょ。加害者家族の方々には、何回「ただいまー」を聞いたことがあるのでしょ。

ここへは勉強が大嫌いになっている子たちが多数やってきます。その子たちのお母様方に共通している言葉があります。「うちの子は、勉強しなさいと言ってもやらないのです。」

もし、「ただいまー」「おかえりー」が日常の家族であったのなら、ひょっとすると、「私は今までに一度も、勉強しなさいと言ったことがありません。」というご返事が返ってくるかもしれません。

家族の絆、このあって当たり前のものが今、徐々にほどけていつているような気が致します。

絆は何気ない当たり前のものからしっかりと育つものではないでしょうか。

今回のこのキャンプ、けっして血はつながってはいないのですが、皆が皆、大家族の一員として楽しそうに時を過ごす。その光景が、私には至福の時間に映りました。

君たちの「ただいまー」が、このようにして幸せを作っているんだね。今年も縁あって、毎年のように来てくれるFさん、Mさん、卒業生の方々、スタッフの皆さん。ありがとうございました。そして、みんな・・・「おかえりー」。